

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (学校法人国際学園)

1. テーマ

専門家配置による特別支援教育支援活動における教員資質の向上と、情報共有のシステム化による協働性の向上のためのプログラムの開発。

2. 問題意識・提案背景

星槎中学校、星槎高等学校は、開校以来、生徒一人ひとりの特性に配慮した教育を展開してきたことが評価を受け、全国教育委員会や自治体関連の文教委員会などから見学者が多く訪れている。その点から、特別支援教育のモデル校として評価を頂いているが、必ずしも全ての教職員が特別支援教育の専門性において十分であるとは言えない。教員の教科の専門性に加えて、特別支援教育の専門性のさらなる向上を図るべきだと考えている。

現在、生活面、対人面や学習面に困難をもつ生徒に対し、全ての教職員が一人ひとりの特性を把握し教育活動にあたっている。確かに、生徒に関わる情熱とその関わる度合いは多いものの、専門性の向上や、チームアプローチの向上などの必要性も感じている。

そのため、単発研修ではなく、通常授業時間に専門家を配置し、より多くの時間を生徒及び教員と関わっていくことで、向上のための課題が明確になり、そのフィードバックによって教職員自体の質も向上し、生徒たちへの教育活動も質の高いものとなるのではないかと考える。

また、学校全体で協働して取り組む際、生徒情報の共有化は必須の事項である。個別指導計画や、生徒個々のプロフィール、日々の行動記録など共有すべき事項を教職員がセキュリティーに配慮しつつ十分な活用を図ることができる仕組み作りも必要であると考えている。

本研究事業においては、これらの 2 つの課題を中学校、高等学校合同で研究推進委員会を組織し、特別支援教育の専門家の協力のもと、理論と実践の両面から研究を推進し、その取り組みを広く社会に還元していく。これらのことを今までの取組に加え研究していくことは、発達障害の可能性のある生徒への指導方法の改善、早期支援の在り方について、中等教育の段階での取り組みの可能性を提示できるということが提案理由である。

3. 指定校について

(中学校)

指定校名：星槎中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	79		3		69		3		75		2
特別支援学級	0		0		0		0		0		0
通級による指導の対象者数	0		0		0		0		0		0
	校長	教頭 副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別 支援 教員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	2	20	4	6	0	2	0	1	0	36

(高等学校)

指定校名：星槎高等学校											
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数		
全日制	普通科	106	4	100	4	94	4				
定時制											
	校長	教頭 副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別 支援 教員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数		2	24	1	6	0	4	0	0	1	38

4. 指定校における取組概要

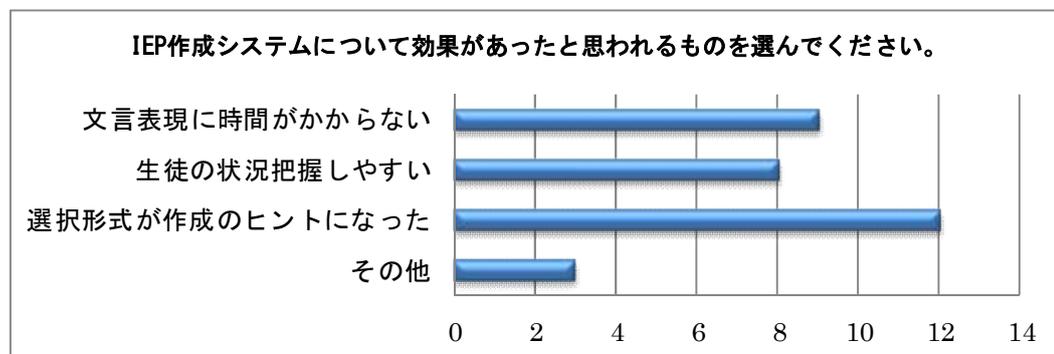
<p>1 定期的な特別支援教育領域に関する専門家の配置と教育活動（IEP 会議、SST 授業）への参画。</p> <p>2 情報共有システムの開発と運用。 （システムの開発と汎用化を志向したブラッシュアップ）</p>
--

5. 主な成果

<p>1 定期的な特別支援教育領域に関する専門家の配置と教育活動への参画 （IEP 会議、SST 授業への参加）</p> <p>全体の様子を見てもらう事で客観的に見た生徒状況、授業展開方法等がわかり、教員としての振り返りができる良い機会となった。また、事前事後に教材の提案や相談ができたなど、授業参加後にも授業法や指導法など具体的な助言や感想をいただき、一緒に考えることができたことは大きな成果であった。</p>
--

2 情報共有システムの開発と運用

IEP 作成のための行動分析から個々の生徒の目標作成までがシステム化された。IEP 作成システムについて効果があったと思われるものについて教職員アンケートを実施した。(複数選択)



IEP作成に必要な機能が揃い、IEP作成支援システムは作成時および検討会議で効率的に進めることができた。また、IEP作成者がシステムを実際に運用することで、より多くの視点からシステムの改善点が挙げられ、早期改善にもつながった。現状でも入力時の補完機能や詳細目標を作成する際に絞りこみやすくなった部分、一人の生徒に関する記録がいくつもの Excel ファイルや会議記録にバラバラに存在する状態から、IEP 作成支援システム内でつながった形で参照できるようになったことなど、メリットは大きい。

6. 今後の課題と対応

1 定期的な特別支援教育領域に関する専門家の配置と教育活動への参画

専門家による授業への参加について教職員にアンケートをとった結果、

- ・授業者への助言を全教員で共有したい。
- ・授業時間以外の休み時間や放課後の生徒の様子を見て、助言があるとなお良かった。
- ・より多くの授業についてアドバイスを貰えるよう、専門家による授業参加を増やして欲しい。

という意見があった。

専門家からの的確なアドバイスをいただき、授業担当者自身の振り返りにもつながることで、教員も自信をもって生徒と関われる場面が増えた。そのため定期的な専門家の参画ができる環境を整えていきたい。

2 情報共有システムの開発と運用 (IEP 作成支援システム)

① 行動分析と目標の関係性

行動分析と目標の紐づけ方法では、行動分析に対して目標の候補を関連付けするが、この関連付け方法については、指導結果や教員の感じたことなどを元に、マスタを調整する必要がある。また、現在は把握できていない教員による行動分析と目標の関係性を紐づける方法がある場合は、システムの改修も必要になる可能性がある。

② データの分析と発見

今後はデータの分析にも着目する必要があると考える。

どのような傾向の生徒が多いのか、生徒自身の評価と教員の評価の違いが大きいのはどのような目標の場合か、また、評価の差が小さいのはどのような目標かなどである。教員や専門家と話し合い、生徒の指導に役立つ結果や、教員自身の気づきにつながる結果がデータから導き出せれば、IEP 作成支援システムも一つの区切りを迎えることができるのではないかと考えている。

さらに、システムを運用し、今までになかった分析結果や気づきを得られることでIEPの目標作成時の質が向上したと感じるときに、もっと大きなメリットを感じることもできるのではないかと期待する。

7. 問い合わせ先

組織名：学校法人国際学園

- (1) 担当部署 学校法人国際学園 企画課
- (2) 所在地 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2
- (3) 電話番号 0463-71-6047
- (4) FAX 番号 0463-60-3507
- (5) メールアドレス y_matsumoto@seisa.ac.jp